

たげどさ逃げろ!

津波に備え総合防災訓練



新町高台に避難した住民



瀧本浩一 氏

下着など)の準備が必要だ」と伝えました。

今年「地震Ⅱ津波」の意識で地震を感じたら、すぐに「たげどさ逃げろ」をテーマに、第一部では、避難訓練(住民の避難、対策本部設置、情報収集・伝達、避難誘導、津波監視、交通規制、避難所開設、炊き出し)と初期消火訓練を実施。

第2部では防災とまちづくりを専門とする山口大学大学院准教授・瀧本浩一氏の講演会が行われ、住民約300人が集まりました。瀧本氏は国と地方公共団体の防災関係の委員としても活躍しています。同氏によると「地震で津波が来る前に家具などが倒れてその下敷きになり動けないところに津波がやってくることもある。また、洪水は終わった後帰宅できるが、津波は必ず帰れないので防災グッズ(水・食糧・振動耐震用マット・

30年前に起きた日本海中部地震、東日本大震災の経験や教訓を忘れずに自分の命を守るため、町では小泊地域で地震、津波、火災を想定した総合防災訓練を行いました。

自分の思いを発表!

第1回町少年の主張大会

子どもたちの思いを発表してもらおうと第1回少年の主張大会が8月29日(休)、総合文化センターパルナスで行われました。町内の小学校6年生と中学校1、2年生の計8人の児童生徒がそれぞれ発表しました。発表者は、学校での友人関係、地域のこと、自分の将来の夢などをテーマに緊張感のある会場で自分の思いを伝えました。

■発表者

- 中里小6年 中村亜美「夢を追いかけ」…尊敬する病気を乗り越えたピアニストから学び、自分の目標ができた。
- 武田小6年 加藤優成「大相撲を武田へ」…大好きな相撲の魅力を紹介し、武田地区へ招致したい。
- 薄市小6年 今 楓香「言葉で…」…クラスメイトとのやりとりで言葉の大切さを学ぶ。手話を交えた発表。
- 小泊小6年 長谷川未侑「ゴミのない、きれいな町を目指して」…ごみ出しなどのマナーの向上をめざしての提案。
- 中里中1年 工藤さいり「松葉づえが教えてくれたこと」…病気で体験した日々から学んだことから、相手の立場になって人を思いやることの大切さを主張。
- 小泊中1年 成田新汰「言葉の力」…部活動を通じ、仲間との言葉のかけ方ひとつで人は変わることを伝える。
- 中里中2年 秋元美月「命に寄り添う仕事」…母の出産に携わった助産師の姿に憧れをもつようになり、自分の目指す仕事へ。
- 小泊中2年 山田法康「アニメと僕とイジメ」…イジメをなくするためにアニメから学ぶ愛と友情を紹介。クラスでのイジメ対策の活動を続けていくことを誓う。

